学校番号	T3016

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ａ	単位数	２単位	年次	３・４年次
使用教科書	新　高校の数学Ａ　（数研出版）						
副教材等	授業プリント						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・「定義・公式を知る⇒例題を教員と一緒に考える⇒例題を解決する⇒演習問題に一人で取り組む⇒演習問題を自力で解決する⇒解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった過程で自ら考えることを主軸として活動を行います。
・途中の式を必ず書きましょう。
答だけを書くのではなく、途中の式を書くことを大切にしてください。自分がどこで間違えるのかがわかり、振り返り学習が可能になります。
・定期的に課題を提出してもらいます。提出期限を守り、必ず提出しましょう。
・ノートを用意してください。
・中学校までの内容や、基本的な問題にも取組みます。

2　学習の到達目標

場合の数と確率について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育む。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	場合の数	和の法則と積の法則 順列 組み合わせ	a：和の法則や積の法則の利用場面を理解し，事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。 順列の意味を理解し，公式を利用することができる。 組合せの意味を理解し，公式を利用することができる。 b：和の法則を，表を利用することで，また積の法則を，樹形図の特別な場合として考察することで見いだすことができる。 となりあう場合の順列のような，特殊な条件が付く順列を，見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 組合せの総数と順列の総数の関係を理解し，順列の総数をもとにして，組合せの総数を考察することができる。 c：場合の数を求めるのに，効率的に考えることができる法則（和の法則・積の法則）があることに興味をもち，使いこなそうとしている。 組合せの考え方を利用して，図形の個数や遠回りをしない道順などの具体的な事象の場合の数を求めようとする。	・定期考査 ・提出課題 ・問題演習 ・観察	・定期考査 ・問題演習 ・観察等	・受講の態度の確認 ・提出課題 ・問題演習 ・観察

後期	確率	事象と確立	a:　確率の定義を理解し，簡単な確率を求めることができる。 表や組合せの考えを活用して，確率を求めることができる。 b: 試行の結果を事象としてとらえ，事象を集合と結びつけて考察することができる。 ものごとの起こりやすさを，同様に確からしいという概念をもとに数量的に考察することができる。 c: さいころを何回も投げる実験において，ある目が出る割合が一定の値に近づくことに興味をもち，その値の求め方を考えようとする。 ものごとの起こりやすさを，数値を使って計算で求めようとする。			
		確率の計算				

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度